

「最後」の夏 誓う勝利

会津北嶺・嘉数優人、宮城智大



「悔いなく終わられる夏にしたい」と話す嘉数＝河東球場



「応援に来てくれる家族らに勝ち進む姿を見せたい」と話す宮城

沖縄出身の球児2人も最後の夏に挑む。会津北嶺のエース宮城智大(18)と一塁手嘉数優人(17)は、沖縄を離れて積み重ねてきた日々を自信に変え、目標とする初優勝に向けて闘志を燃やす。

創部6年目の野球部で、2人も1年から中心選手として活躍してきた。下宿生活を送り、校舎から約9分離れた会津若松市の河東球場に自転車で通って練習に励んできた。その成果が実を結ぼうとしている。今年は創部後初めて春季県大会に出場し、1勝を挙げた。

遠く離れた会津への進学を選んだのは、中学3年の時。高校野球に向けて地元で硬式球の練習会に参加した際、見学していた同校関係者に「新しいチームと一緒に野

古里・沖縄に雄姿を

球しよう」と声をかけられたのがきっかけだ。

宮城は2018年夏の福島大会での日大東北戦の大敗を知り「チームを強くしたい」と入学を決意。嘉数も野球に打ち込みながら、工業系の資格を取得できることから家族と相談して進学を決めた。

当初は雪の多さに驚いたという2人。冬場は雪上で走り込んで足を鍛えて力を蓄えてきた。「1年生の時は雪が降ると喜んだ時もあったが、慣れるとつらかった」と振り返る。最後の夏に向け「悔いなく終わられる夏にしたい」と嘉数。宮城は「今まで遠くから支えてくれた家族や地元の先輩が応援に来てくれる。勝ち進む姿を見せたい」と力を込める。